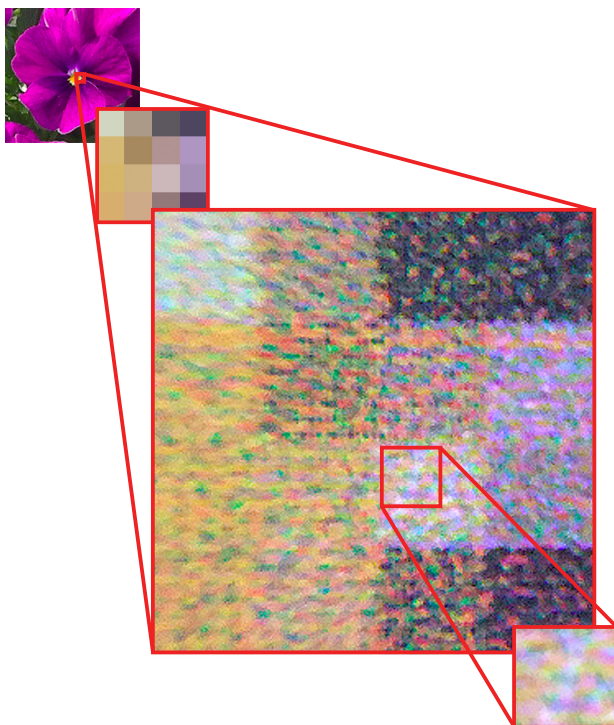


ドット

どっと



プリンタの出力解像度は、プリンタが出力する最小の要素をどれだけ細かく配置できるかを示す値である。

インクジェットプリンタは、インク滴（ドット）の疎密で文字や画像を印刷する。

プリントアウトをルーペで見ると、ドットを見ることができる。上図はインクジェットプリンタで印刷した画像を接写したもの。1つのピクセルが複数の色のドットで描かれている様が見てとれる。

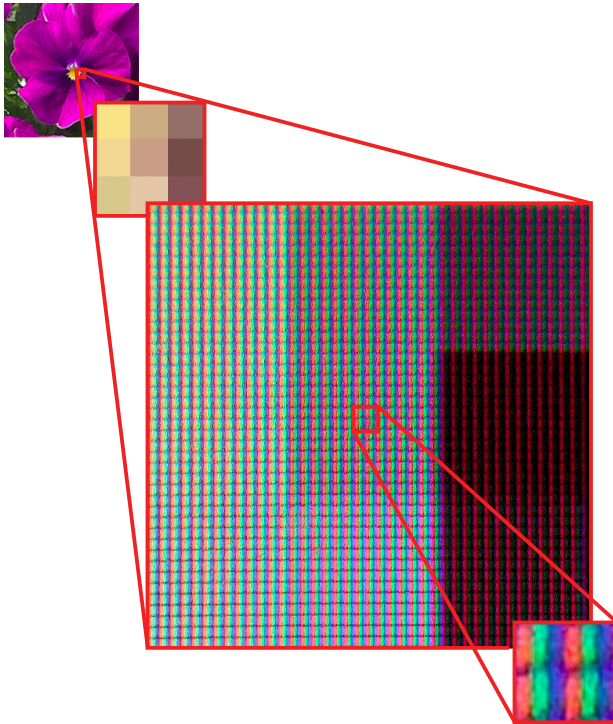
概要

コンピュータの画像や入出力機器に関係してドットという言葉が使われる場合には、それらの精細度を定める最小要素を指す概念がドットだと捉えると良いでしょう。例えば dpi (dots per inch) という単位は、ビットマップデータの画像解像度にも、プリンタの出力解像度にも用いられる単位であり、1 インチの中に収まるドットの数を示します。

ビットマップデータの最小要素はピクセル（画素）ですので、同じ意味でドットという言葉が使われる場面も見受けられ（正確にはピクセルと言ったほうが良いですが）、その場合には1ピクセル=1ドットです。その際に画像解像度が、1インチの中に収まるピクセルの数を示す ppi (pixels per inch) で表されても、dpi で表されても両者は等しくなります。つまり「画像データの解像度を 350dpi にして下さい」と言われた場合には、1インチを 350 個のピクセルで構成するような (350ppi の) 画像データを作成すれば良いことになります。

一方、プリンタの出力解像度も dpi という単位で示されます。例えばインクジェットプリンタは小さな点、インクの滴の疎密として文字や画像を描画します。その場合は、インクの滴が取りうる最小の大きさ（インクの滴を配置できる最小の範囲）としてドットを捉えると良いでしょう。つまり「2400dpi の出力解像度のインクジェットプリンタ」と言った場合には、1インチの中に 2400 個のインクの滴を配置できる精細度を持つインクジェットプリンタという意味になります（従って 350dpi のビットマップデータを 2400dpi のインクジェットプリンタから出力した場合、画像の 1ピクセルとプリンタの 1ドットは等しくなりません）。

液晶などのディスプレイにおいても、物理的にディスプレイを構成する最小要素と、表示される画面情報の最小要素という 2 つ意味で、ドットという言葉が使われることがあるので注意が必要です。



モニタの表示解像度は、縦横のドット（ピクセル）数で示され、変更することが可能である（例：800 × 600 や 1024 × 768）。
対してモニタの物理的なドット数（RGB のドットの数）はモニタによって決まっている。
モニタをルーペで見ると、RGB のドットを見ることができる。
上図はモニタ上に画像データを拡大表示し接写したもの。
1 つのピクセルが複数の RGB のドットで描かれている様が見てとれる。